



日本女医会誌

復刊第198号
2009年4月25日発行
題字 吉岡彌生

巻頭言

副会長 松井ひろみ

外務省の委託による日本・アラブ女性交流事業は、会員の皆様のボランティア精神によって有意義な楽しい充実した活動として日本女医会の歴史に刻む事が出来、いざという時にはそれぞれが持ち味を生かし、対応出来る底力のある組織である事の証明が出来ました。心から厚く御礼申し上げます。

3月8日は「国際女性デー」です。1908年3月8日、米国ニューヨーク市で多くの女性労働者が賃金・労働時間短縮等労働条件の改善を求め立ち上がったのがきっかけで、1910年コペンハーゲンで開催された「第2回国際会議婦人会議」で、ドイツのクラフ・ゼトキン氏が、国際女性デーとして提案し確立されたそうです。

以来毎年世界の女性たちが公に活動を認められ、労働条件改善ばかりでなく、選挙権を含む女性の権利のための運動の日として決定されたとあります。日本女医会の設立は1902年、設立以来107年になります。今年は「女性に対するあらゆる形態の差別の撤廃に関する条約」が国連で採択されて30年ですから、日本女医会のこの時期の設立は世界の大きな波を越

えた先見性のある素晴らしい決断だったと思います。

この先輩の方々の勇気と行動力と団結の強さにあらためて感動を覚え、この踏み出した一歩が現在、女性医師なくして日本の未来の医療はあり得ないところまで発展させてくれたのだと痛感いたします。現在ほど女性医師が注目され話題になった事はなく、多くの医療機関において、「ボスもダンナ」もこの重要性を認識しはじめてくれていることは明らかです。女性医師に働きやすい環境を整え、離職させない・現場復帰させる等、女性医師支援は活発になされて来ます。院内保育所についても大規模病院での設置率は約70%。全体では30%に過ぎませんが、院内保育所が整備されている病院では女性医師が多く、就業継続が可能である事は確かです。しかし、これだけでは抜本的解決にはならないと思います。

かつて医療費は国内総生産の8%でOECD（経済協力開発機構）30カ国中21位、平均以下であった時代でさえ日本の医療は安く、どこでも・いつでも世界の最高の良質な医療・高度な医療を受けられ、国民の満足度はトップであった時代がありました。これは

日本女医会は若い女性の健康を守るために子宮頸がん検診とHPV ワクチンの啓発・普及活動を行います。

日本女医会誌（第198号）もくじ

〈巻頭言〉	松井ひろみ (1)
委員会報告	
子育て支援委員会	津田喬子、金重恵美子 (2)
長寿社会福祉委員会	大坪公子 (3)
女性医師支援委員会	津田喬子、荒木葉子 (4)
第23回日本・アラブ女性交流事業	
学術講演会および日本・アラブ女性交流事業	
公開フォーラム	
「リーダーシップの達成とその成果」	内瀬安子 (5)
公開フォーラム in かけがわ	矢口有乃 (6)
アハラム紙にて記事が掲載されました	(6)
招聘日程表	(6)

連載	
ブロック別懇親会「日本女医会と奈良県医師会との交流会」	
報告と小さな旅	小関温子 (7)
MWIAのお知らせ	内瀬安子 (8)
ハーバード留学記②	吉田穂波 (9)
支部だより「今年の新年会より」	熊谷貴代 (9)
私の大学「山口大学医学部」	大井律子 (10)
講演「現代の忘れもの」〈連載第二回〉	渡辺和子 (11)
理事会議事録	(13)
会員動静	(16)
第54回日本女医会総会のご案内	(16)
編集後記	(16)

医療関係者の努力と誇りとによって成り立っていたと思うのですが、医療費抑制政策が続き、病院閉鎖、医師・看護師・介護職員不足等、医療崩壊が叫ばれる中で努力や誇りだけでは限界ではないでしょうか。まして女子医学生・女性医師が4割に達し、全労働人口に占める女性の割合が41.4%に及ぶ時代です。女性医師も男性医師も女性も男性も同じように働くべきだという考えだけでは社会・経済が成立しえない今後

の国の労働行政にかかわる大きな問題が残ります。

女性医師のライフスタイルに合わせ、男性医師も働き方を変え、人間らしい生活をすべき時代ではないかと思っています。大きな壁を乗り越え、他の分野で働く女性たちとも手をたずさえ、希望の明日を求め活動したいと思います。会員の皆様の御協力御指導をお願い申し上げます。

委員会報告



子育て支援委員会

ゆいネット連絡協議会 in 名古屋 報告

委員 津田喬子

2009年1月22日（木）、午後2時30分より愛知県医師会館情報研修室において、ゆいネット連絡協議会 in 名古屋を開催しました。小雨模様寒い日にもかかわらず愛知県および名古屋市の行政、医師会、助産師会、臨床心理士会、日本女医会愛知県支部等の多くの部門から、28名（内2名は事務担当）の方の出席がありました。大きな楕円形のテーブルで、お互いの顔を見ながらの活発な討論ができました。以下に、その概要をお知らせ致します。

ゆいネット統括責任者から設立趣旨を説明した後、11名の方から現状報告をしていただきました。現状の問題点として、1. 部門間の連携欠如、2. 学校の閉鎖性、3. 性の健康に関するスタンダード教育プログラムの未整備、4. 思春期の子供の実状と施策との乖離などが指摘されました。

2時間余りの限られた時間での討論でしたが、1. 各部門間の交流と連携の構築、2. 学校医の関与の検討、3. 各地区の実状に合った性の健康に関する教育カリキュラムのスタンダード作り、4. 思春期の子供達への接触、対応方法の工夫、など今後の方向性、取り組むべき方策に何らかのヒントが得られたのではないかと思います。

まだまだ多くの課題がありますが、このような会議を通して解決策を見出す努力が必要であるとの共通認識を得ることができました。

開催に際して多大なご協力を頂きました日本女医会愛知県支部の皆様へ感謝申し上げます。

「十代の性の健康」 支援ネットワーク作り（ゆいネット） 連絡協議会 in 岡山 開催報告

委員 金重恵美子

平成21年2月4日（水）16時より岡山中央病院2階セミナー室において第1回目の協議会を開催しました。平日の開催のため仕事の時間調整をお願いし、ご多忙にも関わらず、発表者8名を含め22名の方々がご出席くださいました。

岡山では今年7月26日（日）に日本産婦人科医会の性教育指導セミナー全国大会が開催されます。メインテーマは「性教育：いつまでに？どこまで？」ですが、特別講演、シンポジウムの講演予定者を中心に、「十代の性の健康」支援ネットワーク作りの趣旨を説明してご賛同いただき、この協議会への参加と発表をお願いしました。今回は、岡山県警察本部生活安全部少年課との連絡が間に合いませんでしたが、次年度には連携したいと考えています。

はじめに、ゆいネット委員会委員長対馬ルリ子先生より、挨拶と日本女医会についての説明があり、そのあと女医会が平成13年から3年間「十代の性の健康」指導者養成講座を全国で開催してきたこと、それに つづく活動として平成20年度より3年間の予定で「十代の性の健康」支援ネットワーク作り事業を計画した趣旨説明がありました。

続いて8名の予定発表者から発表いただきました。

①ウイメンズクリニックかみむらの上村茂仁院長：思春期クリニックとしての診療活動、性教育講師として各学校での講演、メール相談、掲示板相談などの現状と問題点、うさぎフレンズのピアサポート活動、岡山SRH（セクシャル・リプロダクティブ・ヘルス）研

究会、デートDV防止プロジェクト・岡山など関係団体の活動を紹介。②岡山県男女共同参画センター 笹井敏恵所長：性・からだ・デートDVなどの女性相談をしており、十代の性行動の現状を通して、性に関する正しい知識を持つことの重要性や性の問題に親子で向かい合うきっかけづくりとして教育委員会と共催で「性と生の講演会を開催した。③岡山県教育庁保健体育課小川泰永指導主事：H19年度、「性に関する教育の手引」を作成。学校現場からは、性交に触れずに、エイズや性感染症は教えられないといつも指摘をされる。その度に、「学習指導要領に則って」「全体指導と個別指導で」とお答えしているが、納得する人はいない。悩みの種であると率直に語っていただいた。④岡山県立岡山芳泉高等学校 平松恵子養護教諭：芳泉高校での講座別性教育の実施。芳泉地域で住民を巻き込んだ「性教育—芳泉地域版—」冊子の作成とその活用（保育園～高校）を紹介。⑤岡山県立大学保健福祉学部看護学科岡崎愉加教諭：思春期の子育て支援という視点での研究を紹介。親が子どもの性に関する発達課題や健康問題に対応できるようにするために、親への支援が必要。十代の性の健康問題に関して、親が十分知っていないことが問題。⑥岡山大学大学院保健学研究科中塚幹也教授：岡山大学大学院保健学研究科、岡山大学医学部・歯学部附属病院、岡山県不妊専門相談センター「不妊・不育ところの相談室」、生殖医療サポーターの会 OKAYAMAで取り組んでいる十代の性の健康に関連した活動と、ゆいネットにおいて関与できる可能性があることについて紹介。⑦岡山大学医学部産婦人科 菊池由加子医師：岡山産婦人科医会と連携し、市中病院でのSTDについて年2回定点調査。産婦人科を受診した幅広い年齢、職業などを調べ、統計をとっている。10代の女性のSTDの特徴など、啓蒙につとめていることを紹介。⑧岡山市保健福祉局保健所中瀬克己所長：エイズ・STD・性教育出前講座（市内小から大学等の希望校から選定して実施）年50校。HIV、STD検査（H19年度受検者は485人中男8、女20人が10代）エイズデーにおける学生主体のエイズカフェ・乳幼児と中学生のふれあい体験事業・思春期電話相談・エイズ、思春期電話相談PRカード配布（中学校2年生全員配布）・命を育む授業（モデル3校中学3年生全員に対する乳児とのふれあい体験、講演会）・「大切にしたい10代の性」リーフレットの紹介。問題点、苦慮事例、対策案、連携の必要性などを説明。

前もってアンケートに答えていただき配布資料も準備できたため、2時間半の会議時間が効率よく進行

できました。岡山ですでに取り組まれている事業や研究、活動がわかったので、各部署での問題点とこれからの連携、取り組むべき新たな活動の方向についてこの協議会を契機に、情報交換の場を作っていきたいと考えています。



長寿社会福祉委員会報告

「在宅高齢者（嚥下障害者、胃瘻造設者）の栄養管理」第2回講習会を開催して

委員 大坪公子

2009年2月7日（土）13:00～16:00、四ツ谷ルークホール（持田製薬本社ビル）に於いて、第2回目の講習会を開催し、総合司会を担当しました。

日本女医会は、平成18年と19年度は「たんの吸引を安全に実施するための教育講習会」を全国各地10ヶ所で行なってきました。平成20年度と21年度は「在宅高齢者の栄養管理講習会」を行なっているところです。日本女医会は一貫して高齢在宅者のための支援講習会を行なっています。

経口食事摂取が出来なくなった高齢者の栄養管理は、医療的にも、看護、介護的にも大きな問題です。講習会の内容は、

- 1) ビデオによる講習（約17分）
- 2) 嚥下障害について
 - ①嚥下障害
 - ②嚥下障害を来す疾患および合併症を藤田保健衛生大学第二教育病院 院長、教授の山本續子先生（約15分）
 - ③嚥下障害のリハビリテーションを東和病院リハビリ科の安斉千枝子さん（約15分）
 - ④嚥下障害者の食事の工夫を三軒茶屋病院栄養科 古畑ひとみさん（約10分）

この間に協賛して下さった各製薬メーカーさんのブースをみてまわり、試供品を味わったり、6社の製品についての説明を受けました。

後半は、

3) 胃瘻造設と胃瘻管理、新大宮クリニック院長 團野誠先生が外科で実際に胃瘻を造る立場から講演をしました（約20分）。

4) 胃瘻トラブルへの対応、国際医療福祉大学大学院 藤原泰子さんが訪問看護師としてのいろいろの経験に基づく講演をしました（約15分）。

5) 栄養食品、機器の紹介、三軒茶屋第二病院栄養科 蔦のぶ子さんが胃瘻より注入する栄養食品について話しました(約10分)。

6) 実習は、10～15人ずつのグループに別れ経管流動食注入の方法についてイルリガートル・カテーテルのつなぎ方、注入速度の調整の仕方、どのような食品があるのかなどを実際の器具を使用して、看護師、栄養士より実技を学びました(約30分)。

7) 質問とアンケートを(約5分)行ない、終了となりました。

- ・受講者 110名
- ・実技指導者 看護師 5名、栄養士 6名
- ・講師 6名、日本女医会関係者 8名

この企画を、新宿区、港区の広報に載せてもらいました。日本介護福祉士協会、日本看護家政紹介事業協会の協力が得られ、受講者が多く集まりました。

東京での講習会が、皆様の御協力により無事終了しました事を感謝申し上げます。今後、全国各地でこの講習会は行われますので、引き続きよろしくご支援下さい。



女性医師支援委員会

読本の発刊にむけて

副会長 津田喬子

2008年11月15日の女性医師支援委員会において、同年9月21日に開催した「医学を志す女性のためのキャリアデザインセミナー2008」を振り返り、セミナーのみではなく日本女医会の認知度を高め、若い世代に具体的かつ明確なメッセージを伝える活動の必要性が反省点としてあげられた。検討の結果、活動の一環として若い女性医師、医学生を対象とした読本の発刊に取組むこととなった。

本の題名は『あなたらしいキャリアを創ろう～日本女医会からのメッセージ～』(仮称)の予定で、真興交易(株)医書出版部を出版社として、理事中心に25名の方に執筆を依頼した。執筆内容としては、「私の今の仕事」、「私が診療科を選んだ理由」、「家庭・自分史」、「今まで一番嬉しかったこと」、「医師を継続できた一番の理由」、「日本女医会の意義」、などである。現在、来る5月16日、17日に大阪で開催予定の第54回(社)日本女医会定時総会時に発刊が間に合うように計画を進めている。

こうした書籍を利用して、各地域で会員獲得に努

めていただきたいこと、これを読んだ若い医師が直接、理事とコンタクトをとって、キャリア形成に役立てていただくこと、なども期待している。

ネットワーク化と ライブラリー事業に向けて

委員長 荒木葉子

女性医師支援の動きは全国で活発化している。日本医師会は、女性医師バンクを設立し、全国で、「女性医師の勤務環境の整備に関する病院長、病院解説者・管理者への講習会」および「女性医学生、研修医等をサポートするための会」などを展開している。

文部科学省においては、医療人養成推進GPにおいて、旭川医大、筑波大学、神戸大学、島根大学、岡山大学、九州大学、大阪市立大学、和歌山県立医科大学、自治医科大学などで、医師および看護師の育児や介護における様々な支援、短時間勤務制度、キャリアカウンセリング、復職の際の技術トレーニングを目的としてスキルラボの活用、eラーニングなどの試みがなされている。岡山大学ではキャリアセンターを設立し、九州大学でも医療人教育研究実践センターを設立して、人材バンクと提携しながら、継続できる仕組みを作っている。同大学では復職後の女性に短時間勤務の非常勤職として「女性外来」を展開する。女性研究者支援モデル育成においては、東京女子医大の病児保育とワークシェアの試みが成功し、平成20年度で終了したモデル事業は、本学の仕組みの中で継続されることが決まっている。

こうした試みの効果について興味を持たれるところであるが、一方では育児・介護については女性の役割とする固定化が進行するのでは、というおそれや、子供の有無に伴うキャリア形成の差に対する評価について考えていく必要性が生じてくる。

女性医師支援委員会では、女医会理事を中心としてロールモデルの本を企画するとともに、全国的に展開されている様々な取り組みを多くの方に広めるいわば仲介役を果たし、女性医師のキャリアに関する調査結果の一元化を図ることなどが重要な役割ではないか、と考えている。つまり、女性医師に関する取り組みのネットワーク化とデータのライブラリー事業である。

平成21年度は、全国の女医会会員の皆様と力をあわせ、女性医師支援および日本の医療人材や医療環境の問題に取り組んでいきたいと考えている。

第23回日本・アラブ女性交流事業

第23回日本・アラブ女性交流事業として、1月28日から2月4日までDr. Nawar (ナワール)、ヨルダン代表とMs. Aziza (アジーザ)、エジプト代表が来日されました。当初予定していたシリアの代表の方は急遽取りやめとなり、お二人だけの訪日となりましたが、別表のスケジュールで8日間を過ごされ、有意義な、充実した交流になりました。会員各位のご協力により無事この事業を終了することができましたことを、心より御礼申し上げます。

学術講演会および日本・アラブ女性交流事業 公開フォーラム

「リーダーシップの達成とその成果」 理事・ナショナルコーディネータ 内瀧安子

第22回および23回の日本・アラブ女性交流事業が、国連NGO委員会の皆様と日本女医会理事会の全面的な協力を得て、無事終了したことをまず報告する。関係の皆様にも多大なご協力をいただいたこと、心より感謝申し上げます。詳しくは報告書を参照いただきたい（ご希望の方は事務局に）。



2月1日 フォーラムイン東京で
ご挨拶をされるエジプト大使

招聘サイドは第23回プロジェクトであり、その中のメインイベントは、公開フォーラムである。よって、本年度の日本女医会学術講演会を兼ねることとした。以下、この学術講演会および公開フォーラムに限っての報告をこの会誌に述べることにしたい。



大森安恵先生

会場は女性と仕事の未来館で、122名が参加さ

れた。御礼申し上げます。

まず、東京女子医科大学名誉教授、同大学糖尿病センターの前所長大森安恵先生から、医療における女性のリーダーシップの達成とその成果についての講演を拝聴した。大森教授は日本の糖尿病女性の妊娠治療を確立したこの分野の泰斗である。日本のみならず、世界のこの方面のいまおリーダーとして、また医師育成の教育者として活躍しておられる先生であり、この講演会の端としてふさわしかった。

ヨルダンのファリズ先生（ヨルダンの女性ではじめての放射線医）の講演、エジプトのヘルミー女史（国家母子評議会上席顧問）の講演とつづいた。ファリズ先生は、ヨルダンにおける女性への教育状

況、国としての女性の健康へのサポート、行政への参加状況について、女性のエンパワーメントとしてまとめてお話しされた。ヘルミー女史は、エジプト歴史の中で国を統治した7人の女性を紹介しながら、ご自分の経験から女性が自ら奮起しなければならないことを強調された。

3番目の演者として、上川陽子前内閣府男女共同参画・少子化担当特命大臣から講演いただいた。日本における男女共同参画プログラムの実情と今後についてお話しくださった。

今回直前になってシリアからの代表が来日できなくなったが、シリア代理大使による講演を得ることができたのは幸甚であった。シリア代理大使アリ氏はまだお若い女性で、さっそうと会場にお越しくくださった。シリアの女性は社会にいかにも多く進出しているか、それは国の大きな援助があったから、と講演された。

女性のリーダーシップは、女性自らが奮起することがその原動力であり、他力本願はない。リーダー的素質をもった女性は、どの国においても、自分を高めていくことが成果を得る近道であると確信したフォーラムであった。



ヨルダンのファリズ先生



上川前内閣府特命大臣



エジプトのヘルミー女史



シリア代理大使アリ女史

公開フォーラム in かけがわ

掛川市・東京女子医科大学大東キャンパスにて、講演にねむの木学園宮城まり子学園長、掛川市立総合病院青木春美看護部長、ファリス先生(ヨルダン)、ヘルミー女史(エジプト)、司会の平敷敦子先生により公開フォーラムが開催された。

公開フォーラムの聴講者は、一般市民、看護学生、掛川市役所職員、掛川市立総合病院の方など、100名近くとなり、ほぼ満席の状態であった。

平敷敦子先生の司会進行のもとに、国連NGO国内婦人委員会江尻美穂子委員長の挨拶で、「リーダーシップの達成とその成果」を開始した。

●宮城まり子学園長の講演

毎朝「よくねた?」、「体だいじょうぶ?」と子ども達が声をかけてくれる、感じたことをそのまま伝える、喜ばれようと思っの言葉ではない……静かに語りかける口調で、障害を持つ子への愛情あふれる講演であった。

●ナワール・ファリス先生の講演

6人きょうだいの長女であり、ご両親が教育に男女の区別をつけなかった、ご自身の経歴を話され、リーダーシップをとる人は、常に高く目標を持ち、1番という考えが必要であると結論された(別添6)。

●アージーヤ・ヘルミー女史の講演

エジプト7000年の歴史の中で、国を統治した7人の女性を時代ごとに紹介された。AchievementとAccomplishment、BossとLeaderの相違の明快な説明は印象的であった。

●青木春美看護部長の講演

看護におけるリーダーシップの育成とその成果の例として、掛川市立総合病院の「愛365日」の取り組みが臨床心理士河合昌子氏の指導で達成された経緯が紹介された。(文責 矢口有乃)

第22回・23回 日本アラブ交流事業報告書より転載



1月28日夕食会の模様

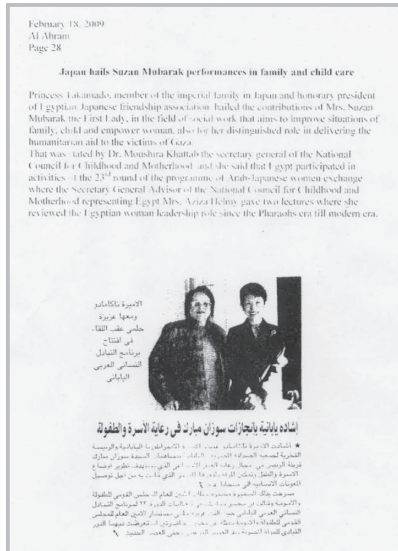


板東男女共同参画局長と一緒に

第23回日本・アラブ

女性交流に関し、
18日、日刊紙アハラム紙にて

写真付きの記事が
掲載されました。



●見出し

日本、スーザン・ムバラク大統領夫人が行う家族および児童支援の功績を賞賛する。

●記事の概要

高円宮妃殿下は、ムバラク大統領夫人が行っている家族や子供を取り巻く生活環境の改善および女性のエンパワーメント、ガザの被災民への人道支援棟社会活動における功績を讃えた。

国家母子評議会ハットブ事務局長は、エジプトは第23回日本・アラブ女性交流に参加し、同評議会顧問であるアージーヤ・ヘルミー女史は右においてエジプトを代表し、ファラオの時代から現在までのエジプトにおける女性のリーダーシップに関し講演を行ったと語った。

第23回日本・アラブ女性交流招聘日程表

日時	1/28 (東京)	1/29 (東京)	1/30 (静岡県、掛川)	1/31 (静岡県、掛川)	2/01 (東京)	2/02 (東京)	2/03 (東京)	2/04
来日	ヨルダン代表、日立メディコへ見学	板東久美子内閣府男女共同参画局長訪問	ねむの木学園見学	掛川市市長表敬吉岡弥生記念館見学	フォーラム in 東京(女性と仕事の未来館)	高円宮妃表敬訪問	丸谷佳織議員らとの懇談	
行事	ブルーフィンギング歓迎夕食会	小池百合子議員訪問 橋本副大臣訪問 外務主催歓迎夕食会	いちご狩りなど懇親会	フォーラム in 掛川(東京女子医科大学大東キャンパス)	日本女医会歓迎夕食会(目黒雅叙園)	聖路加国際病院見学 東京女子医科大学病院見学 澤口邸パーティ	ミキモト本店を訪問 エジプト大使主催夕食会(エジプト大使館)	帰国

ブロック別懇親会

「日本女医会と奈良県医師会との交流会」報告と小さな旅

庶務 小関温子

日本女医会のブロック別懇談会の一環として平成21年3月1日（日）、岡本和美医師会理事のご努力で奈良県医師会の男性医師と男女共同参画委員の女性医師で交流会を開催する事ができました。奈良県の日本女医会員は4人でご高齢のためお目にかかることは出来ませんでした。医師会の先生方との交流会は日本女医会では初めての事で、大変有意義な素晴らしい会であったと思います。当日の様子を簡単にご報告させていただきます。

岡本理事の司会進行で、小田会長の挨拶からはじまり、日本医師会男女共同参画委員会の委員でもあり、副会長の松井ひろみ先生による日本医師会についての「男女共同参画推進の現状と今後の課題」の講演がありました。以下に概要をまとめます。

女性数は今後急増していくと予想され、女医の出産、育児などで離職せざるを得ない状況から厚生労働省の委託事業として「医師再就業支援事業」を開始して「日本医師会女性医師バンク」を平成19年1月に開設した。また、院内保育所を含む医師就労支援の現況は大規模病院での院内保育所は約70%であったが、病院の規模に応じて全体としては31%に過ぎず、院内保育所の整備されている病院では女性医師が多く、就業継続に寄与している。女性医師の離職から医師不足の一因となっているため、今後医師として就業を継続していく問題の理解を深めて行く為にH18年から年1回、モデル事業として男女共同参画委員会の在籍する県で開催した。日本医師会内委員会に於ける女性医師の比率は女性委員の割合は平成16年4.9%、平成20年度7.9%。また女性医師が参画している委員会は平成16年33.3%、平成20年54%と増加傾向が見られるとの報告がありました。

つづいては宮崎千恵先生が「日本女医会における女性医師支援」という演題で講演されました。以下に概要をまとめます。

女性医師支援は、日本女医会がこの数年とくに力を入れて行っている事業の一つです。昨今女性医師の急増にもかかわらず、その働く環境の整備が整わ

ず、意欲ある女性医師の勤務状況が完全なものとはほど遠く、医師不足を加速させている一因とも言われています。

そこで全国の女性医師の増加状況、その選択科の偏在、勤務時間の男女差、また大学、病院、学会、医師会における職位の男女差、に関してアンケート調査を行いました。その結果、医師国家試験の女性がしめる割合は約40%で、地方においては、女性が40%を超えております。医師数は2004年には約16%が女性が占め、診療科別の女性医師の割合は皮膚科38%、眼科36%、小児科31%、麻酔科29%産婦人科22%です。一方、その職位においては、臨床講師4.6%、基礎講師12.6%、臨床助教授2.6%、基礎助教授6%、臨床教授1.6%、基礎教授2.3%ときわめて少数であります。また、学会の女性理事、評議員の割合、認定医、専門医の割合も同様に男性のそれをはるかに下回っております。

医学部卒業11年から15年目の男女医師に対しての調査において、女性医師の約30%はパート勤務、大学病院勤務者も女性は男性の約半数となっております。収入に関しても1,000万円未満の者が、男性の約3倍となっております。キャリア形成の障害になっているものは、男性は労働条件、体力であるのに対し、女性は育児、妊娠、出産、と家事の役割分担の占める割合が問題になっています。卒後の希望項目でも、女性は育児施設の充実をあげております。

日本女医会は今後さらに、色々な問題の解決に向けて、関連各方面に声をあげ、女性医師支援（結果的には全体の医師不足も改善される）を行っていきたいと思います。具体的には、科を超えた調査、病児保育調査、各地区でのメンター制度、キャリアカウンセリング、子連留学支援、女性医師バンク、女性医師再教育センター、などがあります。

講演終了後、奈良県医師会のご配慮で懇親会を設けていただきました。

男性医師の先生方から多数のご意見、ご質問を頂きました。「日本女医会の会員数は1,800人で少ないのでは」、「日本女医会はタレント女医をどう思っているのか」など。また女性医師とご結婚されている先生は子どもの送り迎え、食事の世話などの協力をされている羨ましいお話も伺えました。

日曜日にも拘らず、奈良県医師会会長はじめ理事の先生方、事務の方々と心温まる楽しいひと時を過ごさせていただき、御礼申し上げます。今後、各地での医師会との交流こそ男女共同参画の担い手となる事の大切さを感じました。



前日2月28日(土)理事会終了後、小田泰子会長、山崎トヨ副会長、理事古賀詔子、吉駒茂子、宮本治子、小関温子(敬称略)の6人は品川駅から18:10発の新幹線ひかりで新大阪に向かう事になっていた。まず、宮本先生を見失う、渋谷まで歩いてJRで品川へ行かれたのだろうか、品川駅に早く着いたことで、17:40発のひかりが入ってきたので山崎、吉駒、小関は乗ったが会長、古賀先生はどうされたのだろうかと携帯で連絡、17:47発のぞみに乗ったとのこと15分早く着くので、ホームで待ってくださりようやく新大阪で合流、間もなく古賀先生行方不明、文明の力携帯電話は素晴らしい!吉駒先生のご配慮による宿泊先のホ

テルで美味しい軽食にありつけました。間もなく大阪府女医会会長川田喜代子先生、大阪支部連合会会長野崎京子先生がご参加くださり、5月の大阪での総会のお話し合いをしながらふっと宮本先生がいらっしやらない事に気付き、吉駒先生またもや携帯連絡、お部屋でお休み中らしかったが親睦のため出てくるようにとのことで、やっと6人そろい8人でのひと時を過ごしました。翌朝、近鉄で奈良駅に降り立つと澄んだ空気と穏やかな天候に恵まれて約10分程歩いて奈良県医師会に着きました。医師会理事としてご活躍中の岡本先生が出迎えてくださいました。宮崎千恵先生はすでにいらしてました。松井ひろみ先生は体調を崩され早朝の新幹線で駆けつけてこられました。

帰りは宮崎先生は岐阜へ、会長、古賀先生は飛行機で仙台へ、宮本、吉駒先生は大阪、松井先生はのぞみ、山崎、小関は新幹線ひかりの乗車券で、のぞみに乗りましたが早速車掌さんの検閲で差額のお金を沢山払われました。何歳になっても学生気分になれるものだなと有意義な交流の会と楽しすぎる小さな旅を経験いたしました。

MWIAのおしらせ

来年、2010年の国際女医会議はドイツの古都ミュンスターです。

前回の国際女医会はアフリカ、ガーナで開催されたのですが、この会で、日本女医会前理事・前ナショナルコーディネータの平敷淳子先生が、国際女医会会長に就任されました。ついこのあいだのように思い出されます。ちなみに、ガーナの前の国際女医会は東京の京王プラザホテルで開催されましたが、このときは多くの日本の先生方にもご参加いただきました。

あのときのにぎやかさ、華やかさを、もう一度味わってみませんか。そして、海外の女性医師がどのように活躍されているか、いろいろな状況を知って、わが国の女性医師のための、新しい活路を発見してみませんか。

MEDICAL WOMEN'S INTERNATIONAL ASSOCIATION MWIA Munster Congress 2010

E-mail: secretariat@mwia.net

Website: <http://www.mwia.net>

第1回アナウンス

1. 時期 2010年7月27～31日

2. 場所 Fuerstenberghaus, Munster, Germany

Munster is a lovely historic city in the northern part of Rhine-Westphalia. It is considered to be the cultural centre of the Westphalia region. In 2004, Munster was awarded the title of "world's Most Livable City" by LivCom Award 2004, in the category of 250,000 to 700,000 population.

Munster郊外に国際空港あり

3. テーマ: Globalization in Medicine - Challenges and Opportunities
(医学、医療のグローバル化—挑戦と機会)

留学記

2

夫婦一緒にドイツから
英国を経てアメリカへ留学——夫は感染症科、妻は産婦人科医で
働く女性医師の生き方を追求——

栃木支部 吉田穂波

アメリカでは医学部 (School of Medicine) と並ぶ学部である School of Public Health。日本では「公衆衛生大学院」と訳されることが多いが、統計・疫学、グローバルヘルス、行政と医療システム、経営、医療経済、メディア・ジャーナリズム、環境汚染、リーダーシップ、ジェンダーなどの差別問題、母子保健など、日本の公衆衛生のイメージよりも幅広い内容を扱う、まさに社会健康学部である。日本では研修医、博士課程、ドイツ留学、子育てと仕事の両立、Women's Health など様々なことにチャレンジしてきた私でも、コースが始まってからの3ヶ月間、自分の視野の狭さに気づかされ、健康・そして医療を取り巻く分野の広さ、それにかかわる人の多様さ、奥の深さに目から鱗が落ちる思いであった。ハイレベルな数学能力や国際政治的知識が要求される授業もあるが、医学に関連した授業では、私も臨床医としての視点から一生懸命英語で発言でき、小学生のような喜びを感じる。自分が本当に臨床の産婦人科医という仕事に誇りを持っているのだと改めて気づかされた。

Gender (男女の性差) を扱う授業の中で大勢の学

生たちを前に「女性医師のOccupational Health (職業衛生) ——医療界でGenderは考慮されているのか?」というテーマでプレゼンをしたときの経験である。女性は医学部入学時に男性よりも良い成績で入学するにもかかわらず、キャリアを中断するため、医師全体の供給不足を招くと批判を受けることが多いが、これをどう思うか、とクラス全体に問いかけたところ、多数のpublic health professionalらしいレスポンスがあって驚いた。「アメリカではアフリカ系アメリカ人やラテン系アメリカ人に糖尿病・心血管系疾患が多いことが知られているが、それらの人種が病気で早めにリタイアすることを理由に医師になってはいけないと言うだろうか?」「ますます多様化する医療業務の中で増えるストレスに対し、これからの社会では男女どちらがたくましく対応できるのかを考えているのか?」「医療器具や手術器具ははたして女性を考慮して作られているのか?」といった専門的かつ批判的な意見が続出し、プレゼンしている私のほうが考え込んでしまった。私はその後、日本の女性医師の割合はOECD加盟国 (いわゆる先進国) 中最下位の24%であり欧米の平均54%を下回る、と前置きをした上で女性医師を医師不足のスケープゴートにしないよう社会のニーズに合わせた働き方の変化を、とまとめるつもりであったが、私の想像を超えた方向へ論議が噴出し、私が勉強させられる側となった。ここでは多様なバックグラウンドを持つ学生たちが私のよき師匠である。



支 部 だ よ り

今年の新年会より

千葉支部 熊谷貴代



平成21年2月8日、遅ればせの新年会が千葉市ホテルミラマールで行われました。

会員60余名の千葉支部も年々入会者が減り、高齢化が進んで同じ顔ぶればかりとなり、活動もにぶくなっておりましてところ、この1~2年は開業される若い先生も現れて、ここで新風を吹き込んでくださるのではと、期待しているところでございます。

昨年はいろいろありました。

長年、日本女医会の理事をされていた久田タカ先生が、長い闘病の末ご逝去されたこと。何度となく手術や新薬を試みては、そのつど回復されておられました。昨年6月の総会のときも、癌細胞活動抑制効果のある食品をいかに摂取するかについてのお話を、お元気にしてくださり、先生の気迫と生命力に深く感動しました3カ月後の、突然のお別れでした。

すばらしいお目出度い事もありました。

会員の稲葉美佐子先生が、その長年に渡る地域医療、学校医、予防接種や各種検診などの活動に対して、日本小児科学会より「小児保健賞」を授与された

事です。

それに加えて、先生のライフワークであるNPO法人ヘルスカウンセリング学会千葉県支部「クリオネの家」の活動10周年のダブル祝賀会が開かれました。

日本小児科医会会長をはじめ、東大、順天堂大、東京女子医大の名誉教授、現教授、市長、県会議員の皆様のご列席のもと、約160名が集い、それはそれは華やかな立派な会でした。

先生も、2004年日本女医会より荻野吟子賞を受賞されたあの時よりもさらに美しくお元気で、大きなほりのあるお声でご挨拶なさり、しっかりとした足取りですばやく席から席へと廻られておられました。とても90歳とは思えないお姿でした。

新年会でも、その時のお礼を述べられましたが、人生をしっかりと踏みしめながら生きておられる大先

輩の全てに感動いたしました。

ご出席のお若い先生方にも、長年の地道な努力の積み重ねが大きな結果を産むことを、肌で感じられたことと思います。

私ども中高年は、この新しい金の卵たちを挫折させないようにサポートし、又、眠っている女性医師の発掘と育成、その知識を社会に還元していただく為の仕組みを支えて行くのも役目のひとつと感じました。

日医の女性医師バンクの事業に携わっておられる秋葉則子先生のお話もあり、この辺の問題意識も触発された気がいたしました。

いつもの仲良しクラブのような新年会に加えて、はからずも含蓄のある会になり、今また、新しい結末が生まれるのを願っています。

私の大学 山口大学医学部



県庁所在地の山口市から車で約1時間、山口宇部空港がある宇部市に医学部はあります。2008年公開された映画「ALWAYS 続・三丁目の夕日」の撮影に使用された市民会館や全日空ホテル、飲食店などが隣接する市の中心部に位置しています。

私の出身大学は高知医科大学（現在は高知大学医学部）ですが、約20年前、毎朝、医学部の横を自転車で高校に通学していました。ちょうどその頃、付属病院の外来棟や病棟、動物実験棟などの新築がなされていたことを記憶しています。大学を卒業して山口大学の整形外科教室に入局した時は、新旧の建物が入り混じった複雑な構造をしており、医局や外来、病棟の位置関係を把握するのに多少時間がかかったように思います。その後も手術室の改築、放射線治療室の新設などが相次いで行われ、益々充実した施設となっています。

医学部医学科は他大学と同様に女子学生の割合が増加し、40%近くを占めています。医療短大から医学部の一部になった保健学科の学生と相まって以前より明るく華やかに感じられます。最近では女子学生たちでen-JoYというネットワークを組織して学生の意識調査を行ったり、偶然にもよく似たネーミングとなった女性医師のネットワークY-JoYとの交流を図るなどの活動をしています。私が学生だった頃よりも女性医師としての生き方を積極的に考える機会が増えているよ

うで、頼もしい限りです。ただ、山口県内に残る学生があまり多くなく、働きやすい環境づくりや残って研修をしたいと思うような充実した高い質の医療提供のために私たちがすべきことも多いと感じています。

病院は平成12年度から高度救命救急センターが開設され、平成18年度からは県のがん拠点病院となり、県内唯一の医学部付属病院として山口県の医療を牽引する大きな役割を担っています。患者様からは宇部市にあるため「宇部医大」と呼ばれ親しまれており、高度先進医療のみならず市立病院としての役割も果たしています。市の中心部にあるため、駐車場が少ないのが難点で、外来診療の人数が最も多くなる午前10時頃は外来入口につながる道路は渋滞が起こるのが宇部市の日常の風景となっており、今後さらに駐車場を確保していく計画があるとも聞いています。

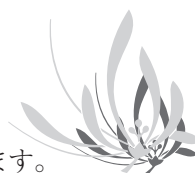
さて最後に私が関わっている女性外来について紹介させて頂きたいと思います。平成15年度に循環器内科の松田昌子先生が中心となって開設され、各医局から女性医師を出し合ってスタートしました。婦人科、乳腺外科、内科、精神科そして私が担当している整形外科、さらには栄養士、健康運動指導士の先生方にも参加して頂き、幅広い診療体制を目指しています。また、癌治療時のかつらや特殊ブラなどの院外業者、地元のスポーツ施設との連携など少しずつですが出来ることを増やしています。女性外来は高い専門性をちゃんと持ちつつ、さらにそこから他分野に知識や技術を上げていけるモチベーションの高い女性医師が連携を持つことで成り立ちます。いま一番の課題は医師の確保であり、同じ思いで診療を進めていける女性医師が増えてくれることを望んでいます。

連載 第二回

第53回 日本女医会総会 講演会

「現代の忘れもの」

195号でご紹介させていただいた渡辺和子先生のご講演の全文を連載として紹介させていただきたいと思います。



マザーテレサに学ぶこと

先ほど、私のご紹介をいただきました中に、私がマザーテレサにちょっとお伝えしたことをおっしゃっていただきました。マザーテレサというかたは私達と同じく20世紀の最期の何十年かを、私達と同じ時代に生きたかたです。そして神様に仕える人間の謙虚な姿を本当に遠慮なくお示しになりました。『無償の愛』というものを、これまた非常にラディカルに徹底的にお示しになりました。と同時に今、ご利益宗教的なものは大事にしている私達に、本当の意味の「祈る」ということはどういうことなのかということを示してくださいました。

私が働いておりました岡山にマザーがお出でになりましたとき、大きな教会でマザーのご講演があり、通訳をさせていただきました。その講演後の質疑応答のときに一人の男性が「私は、マザーをとて尊敬しています。でも一つだけ解らないことがあります。なぜあなたは、なげなしのお薬、足りない人手を、薬を飲ませたら健康を取り戻すかもしれない人たちに与えないで、与えたところで死ぬにきまっている人たちに与えるのですか?」と言いました。私も30歳近くまで、上智でアメリカ人の下ではたらいしておりましたので、合理的なものの考え方を植え付けられておりましたので、なるほどと、その質問を訳しておりました。するとマザーは毅然としておっしゃいました。『死を待つ人の家』に連れてこられるホームレス（路上生活者）、しかも病の篤い人たちは、先ず生まれる時に望まれないで生まれたのですよ。（“unwanted children”とおっしゃいました。）母親が、中絶しようにもお金がなかったので、しょうことなしに産んだ。または、母親が無学であったがゆえに妊娠に気がつかなかった。気がついた時には、墮ろせる状態ではなかった。そこでしょうことなしに産んだ。生まれた時から望まれない存在、育てている間も皆から嫌われ、汚い、臭い、あっちへ行け……生きていても生きていなくても同じ、むしろ生きていない方が世のため人のためではあるまいか、と考えた、そういう人達なんです。その人

たちが、今、路傍で誰にも看取られることなく死のうとしている……それをシスター達に『死を待つ人の家』と呼ばれるところに連れてきてもらって、名前を聞かれ、宗教を尋ねてもらい、傷口または自分の身体を清拭してもらい、生まれてこの方、飲んだことのないお薬をのませてもらい、生まれてこの方、受けたことのない温かい看護を受ける……そうすると、人によって数時間後、十数時間後または数日後に死んでいく時、必ずと言っていいほど「ありがとう“thank you””と言って死ぬんですよ。本来ならば、産み捨てた親を呪い、冷たかった世間を恨み、祈っても助けてくれなかった神も仏もあるものか、という気持ちで死んでも構わない、その人たちが、何と、親を赦し、世間と和解し、そして、『ああやっぱり、神様、仏様はいらっしゃる、その証拠に、こんなに親切にしてもらった……。』と心を取り直して、この世に感謝をして死んで行く。そのために使われる薬ほど、人手ほど尊いものはないでしょう。」とおっしゃいました。

私もそれを伺って訳している間に本当にそうだなと思いました。もちろん、トリアージということ……今も、中国やミャンマーの被災地に救援隊が行って、助かりそうな人を先に助けているということ、それはわかります。しかし、マザーがしていらっしゃる、そのことのために1979年にノーベル平和賞をお戴きになったお仕事というのは、助かる人を助けるのではなく、その人の魂が穏やかに平安に、神の御許に、あるいは仏様の懐に戻っていくかということだったんです。

マザーのところにボランティアにいらした日本人の医師がNHKの宗教の時間で語られた「マザーのところには、見るべき医療はなかったけれども、真の看護がありました。」というお言葉は今だに耳に残っております。「マザーのところに見るべき医療はなかった。私の兄の診療所にさえあったような医薬品や簡単な医療器具もないでしょう、しかし、そこには真の看護があった。……看護の「看」は手と目と書きます。私はこれは、とても大切なことだと思うのです。近頃は医療機器が発達して、器械をみながら診察をしている。……私自身もいくつか

の大きな病気をして、そういう器械のいくつかにお世話になりましたが、人の心が求めているのは、器械が示す数値や画像でなく、やはり手の温もりと優しい眼差し……いみじくも「手」と「目」をあわせると看護の「看」、看取するという字になります。

さて、そのマザーが岡山の教会でのご講演のあと、夜も8時頃、お泊りになるため私どものいる修道院にお出でになり、待ち構えていたノンクリスチャンですけども、学生達にお話をして下さいました。マザーは相手が誰であろうと「祈りを大切に下さい。」「家庭を大切に下さい。」「笑顔を忘れないように。」とおっしゃっていました。私どもにも、そういうお話をしてくださった夜も9時半過ぎ、お話のあと学生達がすぐに私のところに参りまして、「私たちはカルカッタに奉仕に行きたい。何とかしてマザーに受け入れてもらえないかマザーに書いてもらえないか、と申しましたので、私はすぐにマザーに伺いました。マザーはとても嬉しそうなお顔をして、「学生さん達に言って下さい。わざわざ航空運賃を使って、学校を休んで、あるいは、夏休みを使ってカルカッタまで来なくてもいいんですよ。自分の周りにある、『周辺のカルカッタ』で喜んで働く人になってほしい。」これが、マザーテレサから学生達へのメッセージでした。つ

まり、私たちがボランティアに行くこともとても良いことだけれども「うちをお留守にしませんか？もっと身近にカルカッタがあるのではありませんか？そこで、淋しい思いをしている人たち、人々から避けられ、人間であることさえ認めてもらえない、そういう人たちに優しくしてやって下さい。」というお話には、学生達も納得いたしました。 【次号につづく】

渡辺和子 先生 (シスター渡辺) Profile

昭和2年旭川生まれ。父上は渡辺錠太郎陸軍教育總監（陸軍大将）。昭和11年（9歳）、二・二六事件により、父上が銃弾に倒れる姿を目撃するという衝撃的な体験をされる。その後、雙葉高等女学校、聖心女子大学をご卒業、昭和29年上智大学大学院を修了。昭和31年（29歳）ナミュール・ノートルダム修道女会に入会。同会よりアメリカに派遣されボストン・カレッジ大学院にて哲学博士号を取得後、帰国。昭和38年、36歳という異例の若さでノートルダム清心女子大学学長にご就任（平成2年まで）。昭和49年岡山県文化賞受賞。平成2年ノートルダム清心女子大学名誉学長、学校法人ノートルダム清心学園理事長。平成4年～平成13年 日本カトリック学校連合会理事長。

ご活躍の陰でご苦労も多く、50歳の時にはうつ病の経験も。しかし病を乗り越え、学生たちを常に温かく見守り、教育者として、シスターとして多方面で功績を残していらっしゃいます。

著作『心に愛がなければ』『信じる愛、持っていますか』『人をそだてる』（PHP文庫）など多数。

がんと、対話する。

頭の中が真っ白になった。

がんとの出会いを、そんなふうに振り返る人は多い。

まさか自分が。なぜ自分が？

ある日突然もたらされる不安、悲しみ、そして孤独。

でも、がんは、一方的に絶望を押しつけたりはしない。

気持ちが少し落ちついたら、顔を上げ、がんに向き合ってみる。

私たちアストラゼネカは、医療にかかわる一員として、さまざまな活動を通し、患者さんはもちろん、そのご家族や医療関係者など、病氣と向き合うすべての人たちの心の支えとなる活動に、今、取り組んでいます。

がんと対話、それは人生との対話、希望との対話。アストラゼネカは、これからもチャレンジしつづけます。

がんになっても 検索 <http://www.az-oncology.jp>

がんになっても、希望と、あたりまえの生活を。

アストラゼネカ株式会社

〒531-0076 大阪市北区大淀中1丁目1番88号

<http://www.astrazeneca.co.jp>

アストラゼネカは英国に本社を置く新薬開発をリードする世界的な医薬品企業です。



((理事会議事録))

日時：平成20年12月14日(日)
午後2時

場所：京王プラザホテル

出席者：小田、津田、松井、山崎、
安部、荒木、小関、古賀、
川村、澤口、澁谷、田中、
塚田、濱田、藤川、宮崎、
宮本、矢口、山田、山本、
吉馴、中井 (以上22名)

欠席者：秋葉、内潟、高原、対馬、
森川 (以上5名)

11月理事会議事録を承認

【会長挨拶】

1. 来年の中東女性団体の受け入れ準備が着々と進んでいる。楽しみながら遺漏なく進めたい。協力を要請。
2. 「子育て支援」「長寿社会福祉」「女性医師支援」も各地で会員の協力を得て、着々と進行し、本を出版するなど新しい動きもある。皆様のご協力に感謝。
3. 子宮頸がんに関する活動は全国的な規模で運動が盛り上がりつつある。日本女医学会も乗り遅れずかつ背伸びせず、できるところから参加していきたい。
4. 7月の日本医師会の男女共同参画シンポジウム後、津田副会長、私もいろいろな所から講演を依頼されている。日本女医学会の存在と活動をもっと知って貰うために更に活動して行きたい。
5. 中東でもオーストラリアでも日本女医学会のバッジが非常に喜ばれた。お土産用としてこのような形のものを作っておくのは良いことと思う。
6. HPをお願いしているユートさんにも今日は来ていただいているが、澁谷先生のお陰でHPが充実されて、日本女医学会の活動が分かりやすくなった。
7. 奈良でのブロック別懇談会は奈良県医師会との交流会に進展する動きになってきている。今後、各地

で開かれる際にはぜひ医師会のご協力をお願いしたい。

8. ejnetの第4回総会に出席。活力ある会であり、男性会員のアイデアを感じた。

【報告事項】

1. 庶務報告 (古賀理事)
 - ・理事会を日本女医学会会議室にて開催 (11/15)
 - ・吉岡彌生記念館創立十周年記念式典に出席の報告。(松井副会長 11/29)
 吉岡彌生先生のDVDが制作されて、吉岡先生の人となりがよくわかる。
2. 会計報告 11月分 (濱田理事)

承認
3. 事業部報告 (藤川理事)

大学別会員数について報告。日本女医学会の会員がいない医科大学は防衛医大、福井医大、山梨医大、香川医大、宮崎医大、鹿児島大医の6大学。会員数が数名と少ない大学もあり、今後、全県、全医科大学に女医学会の会員を配置できる態勢造りをしたい。会員ネットワーク作りに協力を要請。
4. 渉外部報告
 - ① 12月2日、内閣府男女共同参画推進連携会議全体会議に出席 (松井副会長)
 - ② 12月3日、国際婦人年連絡会「環境委員会」に出席 (中井監事)
 - ③ 厚生労働大臣に提出する人権に関する要望書に「公的病院の管理職に女性医師の適用を」との要望を追加したとの報告 (山本理事)
5. 学術部報告 (荒木理事)

来年2月1日に「日本・アラブ女性交流」のフォーラムを学術部講演会も兼ねて開催。
6. 広報部報告 (澁谷理事)

1月末発行の日本女医学会誌197号の原稿を依頼。
HPをお願いしているユートさんを紹介。今後もHP充実のために協力を依頼。
7. 委員会報告
 - ① 子育て委員会 (津田副会長)

連絡協議会を11月23日に札幌、11月27日に盛岡で開催。(対馬理事は資料

「20-12-2」にて紙面報告) マスコミ利用の提案が藤川理事からあった。

- ② 長寿社会福祉委員会 (松井副会長)
 - ・12月4日に委員会を開催、2月7日に東京ルークホールで講習会開催。
 - ・来年度の講習会は6月に埼玉、7月4日に岐阜、10月神奈川で決定。8月か9月に北海道、11月に九州か東北で、22年1月か2月に群馬での開催を希望。協力の要請
- ③ 女性医師支援委員会 (荒木理事)
 - ・資料「20-12-3」に基づき、11月15日に開催の委員会の報告(キャリアデザインセミナーの反省、今後の計画等)。チャット会については宮崎理事より報告。
8. NC報告 (矢口理事)
 - ・内潟理事欠席につき次回に報告
 - ・今後NCの資料はNC補佐の安部、矢口両理事も熟知しておいてほしいとの意見が出された。
9. その他の報告
 - ・小児救急子育て委員会について (山崎副会長)
 11月16日、足立区医師会主催の小児救急公開講座に森川監事が講演。

【審議事項】

1. ホームページについて (澁谷理事)
 - ・ユートさんから現在のHPの状態について説明があった。
 - ① 現在の女医学会のHPはクローズ的な情報が多いが、より一般向けの情報発信し(現在休止中の「女性医師によるからだこころの相談室」の再開等)アクセス数を増やすことにより、ゲルグルの広告料を得るという選択肢もある。
 - ② 会員向けと一般向けの情報を分けて作る等が提案された。
 - ・今後、HP担当の澁谷理事を中心に広報部で案をまとめ、検討する。
2. 日本・アラブ女性交流について (津田副会長)
 - ・東京で開催される講演会用のチラシはヨルダンのバスマ王女表敬訪問時の写真入りに決定。掛川でのフォーラムにも多数の役員の参加を要請。
 - ・皇室関係の進捗状況について説

明。

3. ブロック別懇談会出席者確認および懇親会予算について(古賀理事)
 - ・3月1日に開催のブロック別懇談会について資料「20-12-4」に基づき説明。今回は奈良県医師会との交流会を兼ねる。
 - ・講演演者は女性医師支援委員会メンバーから1名、松井副会長、宮本理事に依頼。
 - ・予算10万の内、講師の旅費を支出後の会計は古賀理事に一任する。
 - ・今後は日本女医会として「統一資料の作成」の提案が荒木理事より出された。
 - ・2月28日理事会終了後に移動するので大阪宿泊も含め計画する。
4. 平成21年度理事会開催日について (山崎副会長)
 - ・平成21年5/17(日)大阪にて総会、6/20(土)、7/18(土)、9/12(土)、10/17(土)、11/15(日)14:00、12/20(日)13:30(終了後、忘年会)、22年1/16(土)、2/20(土)、3/20(土)、4月第3週土曜日、5月第3週土曜日東京にて総会。6月第3週土曜日。土曜日開催の時は15:00開始。
5. 各賞募集 (会長)
 - ・各賞の募集締切は12/25日。現在数名の応募が届いている。
 - ・各賞選考日は2月28日(理事会開催日)に開催。選考委員は各部の部長および理事歴2年日以降の理事とし、吉岡弥生賞:会長、副会長、古賀理事、濱田理事、山本理事。荻野吟子賞:会長、副会長、澁谷理事、高原理事、田中理事。学術研究助成:会長、副会長、内潟理事、澤口理事、対馬理事に決定。
6. 次々期総会開催日について (津田副会長)
 - ・開催日は5月第3土曜日。山本理事より宮城支部での開催を前向きに検討するとの発言があった。
7. 女性医師支援委員会から (荒木理事)
 - ・女性医師の包括的なデータが無いので関係各所に協力依頼のため

に作成した「女性医師支援ネットワーク作りのお願い」と「女性医師に関するライブラリー作りのお願い」の配布先及び文言について検討。趣旨を明確にして、支部の方々にも理解してもらえるように、委員会でも再調整し、次回理事会で再検討する。

- ・女医会から書籍出版について (津田副会長)
 - 資料に基づき説明。先輩医師の「知恵袋」としての形で出版することで可決。出版社(真興交易(株)医書出版部とも話し合いを進めていく。
- ・超党派での「行政とのネットワーク作り」も今後検討して行きたい。
- 8. 寄付について (山崎副会長)
 - ・前回11月の理事会後会計で再検討した結果、吉岡賞基金に100万追加し300万とし、残りを本部口としたい旨提案があり、承認される。
- 9. その他
 - ・報告事項は短く、審議事項については紙面での提出を、また審議の時間は十分に取るようにすべきである、との意見が荒木理事より出された。
 - ・職員の退職金について

日時:平成21年1月24日(土)
午後3時

場所:社団法人日本女医会 会議室

出席者:小田、津田、松井、山崎、秋葉、安部、荒木、小関、古賀、川村、澤口、澁谷高原、田中、塚田、濱田、藤川、宮崎、矢口、山田、山本、森川、中井 (以上23名)

欠席者:内潟、対馬、宮本、吉馴 (以上4名)

理事会開催に先立ち長寿社会福祉委員会の山本續子委員長より来年度講習会の開催に関し協力の要請があった。

12月理事会議事録を承認

【会長挨拶】

1. 今年も「日本・アラブ女性交流」の受け入れから始まり、長寿社会福祉委員会の「高齢者の栄養管理」、子育て支援委員会の「ゆいネット」の活動行事が入っている。特に「日本・アラブ女性交流」は内潟先生の濃密な準備がなされている。皆様のご協力をお願いしたい。
2. The Women's World Summit Foundation (WWSF) への応募通知が来ているので、返事をする事。
3. 保育の公的責任が自治体から個人へ移行される動きがある。これは自治体に出されていた補助金を保護者に直接出すことにより保育に市場原理を導入するとの考えで注目したい。
4. オバマ大統領の演説が注目される中、「Government of...by...for the people.」のpeopleは「私たち」のことで、Governmentは「行政、会」などと訳されるべき言葉と最近理解できた。日本女医会は会員のためにある会と言う原則を忘れないで行動したい。
5. 病院管理の基本となるPDCAサイクルという言葉があるが、日本女医会としてもP(plan)とD(do)だけでなく必ずC(check)とA(action)をしていかなければならない。
6. 「女性医師支援」、「ワークライフバランス」、「男女共同参画」という言葉には女性を補助者として使いたい意図が見える。今後このことを訴えて行きたい。
7. 今年もそれぞれがその場その場でよい活動ができるよう、祈っている。

【報告事項】

1. 庶務報告 (小関理事)
 - ・理事会と忘年会を京王プラザホテルにて開催(12/14)。忘年会会費で支払いの残額35,983円を次回にプールすることの提案が承認

された。

- ・自由民主党第76回定期党大会(1/18)及び自由民主党政務調査会社会保障制度調査会医療委員会(1/20)に出席の報告
(松井副会長)
- 2. 会計報告 12月分 (塚田理事) 承認
- 3. 事業部報告 (藤川理事)
 - ・「いきいきの原稿」は順調に執筆中
 - ・学生会員の確保に努力したい
 - ・日本女医会の紹介文を今回出された「案内文」と別立てで作りたい。
- 4. 渉外部報告
 - ①12月19日、第63回国連総会報告会に出席(矢口理事)
 - ②1月7日、各界女性新年交歓会に出席(澤口理事)
- 5. 学術部報告(安部理事)

2月1日開催の「日本・アラブ女性交流」のフォーラムに95名、懇親会に45名の参加の申し込みがある。
- 6. 広報部報告(澁谷理事)

1月7日に日本女医会誌197号の校正会議を開催。原稿締切日の厳守を要請。今回は出来上がりが遅れ、発送が1月28日以降になる。
- 7. 委員会報告
 - ①子育て委員会
(澁谷理事、津田副会長)
連絡協議会を1月22日に名古屋で開催。
 - ②長寿社会福祉委員会
(松井副会長)
理事会前に委員会を開催、山本委員長よりの要請を再度依頼。
 - ③女性医師支援委員会 (荒木理事)
先月より余り動きがないが、議題で提出ある
- 8. NC 報告 (矢口理事)
審議事項で提出。
- 9. その他の報告
 - ・小田会長より、日本医師会の「女性医師支援の会」が各地で行われている。各自においては各所で「日本女医会」としての協力を要請。
 - ・山崎副会長より「小児救急の冊子」の増刷を検討中。その際「転載を禁ず」の一文を入れる予定。

【審議事項】

1. 第54回定時総会について
現在のところ、総会の申し込みは55名。山崎副会長より野崎大阪10支部連合会会長を面談したとの報告。多数の参加を要請。
2. 平成21年度事業計画案および予算案について
各部で事業案、予算案を検討して2月理事会の一週間位前に事務局へ提出する事。
3. ホームページについて
(澁谷理事)
 - ・資料「20-1-2」に基づき説明があり、内容、見積もり共に承認。直に進める。
 - ・「Web 会員」の定義を「会報を送らない会員(会費1万円)」として再度確認。
4. 日本・アラブ女性交流について
(矢口理事、津田副会長)
講師の謝礼金は一律5万円で承認。「資料20-1-3」に基づき日程の詳細と参加者を確認。
5. 女性医師支援委員会より
(荒木理事)
 - ・女性医師支援のネットワーク作りの依頼文「資料20-1-5」を基に宛先と内容について検討。支部との連携を取るのが第一の目的であり、新しく作るホームページと連動するようにする。5月の評議員会で意図を理解してもらえよう話をする。支部以外では県医師会、医科大学医学部長、日本医師会指定学会宛として、再度内容を検討する。
 - ・出版本について (津田副会長)
「資料20-1-4」に基づき「新しいキャリアを創ろう～日本女医会からのメッセージ～」(仮称)について説明があり承認。出版社より執筆者へ直接依頼がある。
6. 日本女医会勧誘文の訂正
(澁谷理事)
入会のお誘いは従来どおり「しおり」と「お誘いの文」(資料20-1-6)の2段構えで行い、内容は重複しているところもあるので検討。「しおり」の追加内容は理事より事務局へ指示を出す。各人からの意見を、次回理事会で再度

検討。賛助会員への勧誘文についても次回まで作成。

7. その他の依頼
 - ・総務省統計局、乳房健康研究会から名義後援依頼を承認
 - ・神奈川支部宮川先生からの助成金申請は支部経由でなく個人であるので却下
8. 報告事項
 - ・ブロック別懇談会について
(古賀理事)

次第(案)「資料20-1-7」に基づき説明があった。「日本女医会における女性医師支援について」は、1月31日栃木県医師会で講演する荒木理事のデータを使わせてもらう。

9. その他
 - ・森川監事より「小児救急のDVD」を制作したので、機会があれば使用してほしいとの報告
 - ・荒木理事より本日配布した「HPV」の資料についての説明
 - ・吉岡弥生賞選考委員会は次回理事会(2月28日)の14時30分から、学術研究助成選考委員会は14時45分から行うことを確認
 - ・濱田理事より2月14、15日に北海道で開催される「BPW 総会」に日本女医会会長からスローガンとして「HPV ワクチンの啓発・普及活動…」としたい旨希望があり、承諾される。



会員動静 (2009年2月28日現在・敬称略)

入 会	滝本可奈子 (平20年卒)	北海道	土屋 恵 (平6年卒)	大阪 10	
	岸 美紀子 (平7年卒)	群馬	大内 能子 (昭48年卒)	京都	
	相良 重子 (昭48年卒)	埼玉	上田 聡子 (昭55年卒)	山口	
	中田 恵久子 (昭50年卒)	埼玉	田村 博子 (平7年卒)	山口	
	山本 芳子 (昭57年卒)	大田	大井 律子 (平9年卒)	山口	
	黒堀 ゆう子 (昭61年卒)	渋谷	退 会	22名	
	高島 滋子 (昭31年卒)	渋谷	会 故	桜井多美子 (昭23年卒)	北海道
	丸山ユキ子 (昭48年卒)	渋谷		油井 フミ (昭14年卒)	宮城
	横内 裕佳子 (平5年卒)	渋谷		浅井みゆき (昭60年卒)	栃木
	菅原 道代 (平3年卒)	渋谷		旭 百合子 (昭57年卒)	栃木
志村 香奈子 (平20年卒)	世田谷		石黒 妙子 (昭44年卒)	埼玉	
永井 真帆 (平20年卒)	都 下		山田 繁子 (昭12年卒)	神奈川	
松久 充子 (昭56年卒)	静岡		佐藤 秩子 (昭27年卒)	愛知	

寄 付 者 (敬称略) 村田 郁 (埼玉)

第54回(社)日本女医会定時総会ご案内

さて第54回定時総会は大阪において下記要項にて開催致します。
多くの会員の皆様のご参加を現地会員一同、心からお待ち申し上げます。

大阪支部連合会会長 野崎京子

開催日 2009年5月16(土)～17(日)
場 所 ホテルグランピア大阪 (大阪駅構内)
大阪市北区梅田3-1-1
TEL: 06-6344-1235

行 事

1) 2009年5月16日(土)

PM4:00 総会受付開始 参加登録費 3,000円

◎評議員会 PM5:00～7:00

◎懇親会 PM7:30～9:00

懇親会費 15,000円

・ソプラノ歌手 河村さと子さんの独唱

(京都市立芸術大学音楽部卒業 兵庫大学短期大学准教授)

2) 2009年5月17日(日)

◎総会 AM10:00～12:00 昼食費 2,000円

◎講演会 PM1:00～3:00

・国際女医会会長 平敷淳子先生

「Professionalism から考える leadership」

・九州大学副学長 水田祥代先生

「まさかの坂」をこえて—多くの人との出会い—

●オプションご案内

2009年5月16日(土)開催

1) 宝塚歌劇観劇 於 宝塚大劇場

AM11:00 開演 「宙」組公演 参加費 15,000円

S席チケット 昼食 パンフレット 往復専用バス込み

ホテルグランピア大阪から専用バス AM9:00 出発

終了後は全員バスにてホテルまで帰りチェックイン

※ アクセスは伊丹空港、新大阪駅から等ありますが、
いずれも1時間はみておいてください。インターネットでの参照をお願いします。

既にお申し込みされた方々も多いと思いますが、まだ
少し残席がございます。お早めにお申し込み下さい。

お申し込みお問い合わせは
日本女医会事務局までお願いします。

電話: 03-3498-0571 FAX: 03-3498-8769

メール: office@jmwa.or.jp

編集 後記

新年度が始まりました。日本女医会新役員にとっても2年目
に入り心新たに各種事業に向き合って前進してまいります。宜
しくお願いいたします。

医学部卒業生、医師国家試験合格者、新入学生といずれも女性優位は変
わらない事実ですが、現実はどうと環境整備は全くなされてなく、若い
医師達の悲鳴が聞こえてきます。女医会として今後も引き続き声を出して
関係機関に訴えていく必要があります。唯一女性医師の集団です。会員を
増強して大きな輪として活動していきましょう。

『日本・アラブ女性交流事業』の記事にも書かれているように女性自ら
奮起しなければ道は開かれない、しかし国の援助が前提になっていること
も女性の社会進出にはかせないことであると講演されました。わが国に
おいても女性医師一人一人の自覚のうえに国の改革を期待したいです。

(秋葉則子)

日本女医会誌

復刊第198号 2009年4月25日発行

編集人 対馬ルリ子

発行人 小田泰子

制作 あづま堂印刷製

発行所 社団法人 日本女医会

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2-8-7 青山宮野ビル

TEL 03-3498-0571 FAX 03-3498-8769

http://www.jmwa.or.jp

e-mail: office@jmwa.or.jp